

共に生きて I

紙面についてのご意見、感想をお寄せください。メール、ファクスで受け付けます。郵送の場合は〒810-8721(住所不要)、西日本新聞生活特報部へ。

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp



12

登山 万佐子

長女綾美(8)が1歳を過ぎ、公園や兄が通う幼稚園の行事など、一緒に外出することが増えてきました。すると、他のお子さんとの差をまさまざと感じさせられました。明らかに娘より月齢の低い赤ちゃんなの方が、体つきも表情もしっかりしているのです。

毎日のように、育児書や同じぐらいの妊娠週数で出産した人のブログを読んでは、娘の発達度合いと比べていました。比べれば比べるほど、いつまでも腰が据わらず、グラグラしている娘のことが不安になるばかりでした。

重度の未熟児網膜症で手術をしていた目も「見えているのか?」と常に不安がありました。

発育の遅れ 募る不安

早産で生まれた子は3歳ころまで、出産予定日から数える「修正月齢」で成長や発達を見ていきます。でも、出生時の在胎週数や体重が少ないほど、修正月齢よりもさらにゆっくりと発達していく傾向があるともいわれています。



2歳8カ月ごろの綾美ちゃん。まだ、どこに行くにもベビーカーが手放せなかった

家族会では、2歳を過ぎてやっと歩きだした超低出生体重児(出生体重千々未満)の子を何人も見てきました。小学校入学前後に突然、話したというお子さんもいて、一般的な指標通りに発達していかないケースが多いようです。

情が乏しい」など、何らかの不安と育てにくさを感じている方が、家族会にはいました。専門家の話で、なるほどと納得したことがあります。早産児はまだおなかの中にいるはずだった期間、1日のほとんどを母親と離れて保育器の中で過ごします。保育器は、たくさんの医療機器の音、照明、採血や治療など、さまざま

まな刺激に常にさらされている。またまだデータ、極端に敏感になるか、鈍感になるか、いずれかで自分を守るのだそうです。

確かに、小学校に入学するまでの娘は、ちょっとした物音ですぐに起きてしまうし、手や足を触られることを極端に嫌がりました。母親の私でもすぐに手を振りほどかれ、手をつなげないのです。

娘は1歳からリハビリ病院、障害がある未就学児が通う児童発達支援センターで身体機能と言葉の発達を助ける療育、1歳半ころから眼科で視力の発達を促す視能訓練を始めました。娘の育ちを支える訓練であると同時に、私が娘を育てるためのたくさんのヒントを得る大切な場所でした。

(「Nっ子クラブ カンガルーの親子」代表、福岡県筑紫野市)